

『高き自由の精神』～『他人の苦痛に対する思いやり』～

2023年10月5日 健康データサイエンス学部長の青木茂樹先生の企画で、浦安・日の出キャンパスでの講義『病理学・がん研究の社会とのつながり・がん哲学』の機会が与えられた。 真摯な学生の姿には、大いに感動した。

【『がん病理学』は『がん』に関する学問で、『形態』、『起源』、『進展』などを追求する学問分野である。当然がん研究者だけのものではなく、一般社会の人々の為の学問でもある。がん病理学者が『がん』をどのように考えるかは、とても大切なことである。なぜなら『がん』に対する概念が世界観、人生観、ひいては日常の決断や行動をも時には決定するからである。『がん』の『起源』と『進展』を学ぶことは、ある意味では人生の意義と目的の『静思』へとも導くものとする。これこそ、『がん病理学者の社会貢献』である】と語った。また、筆者の出身地も問われたので、島根県出雲大社鶴峠とさりげなく伝え、『稲葉の白兎』（画像）と『遣島使』（画像）の話もした。

【『最も剛毅なる者は最も柔和なる者であり、愛ある者は勇敢なる者である』とは、『高き自由の精神』を持って医療に従事する者への普遍的な真理であろう。『他人の苦痛に対する思いやり』は、医学、医療の根本である。今から約1300年前、712年に編纂された『古事記』に登場する、医療の原点を教えてくれる大国主命の出雲大社から、8キロほど、峠を越えて美しい日本海に面した小さな村が、私の生まれ育った出雲市大社町鶴峠である。隣の鷺浦地区と合わせて、鶴鷺（うさぎ）と呼ばれている。713年に編纂が命じられたという『出雲国風土記』にも登場する歴史ある地である。】

#### 『教育理念』の5ヶ条

- ① 自分の方が人の役に立つと思う時は進んでやれ
- ② 人の欠点を指摘する要はない、人のあやまちは語るには足らぬ
- ③ 理由があっても腹を立てぬこそ非凡の人
- ④ 感謝は優しき声に表れる
- ⑤ 心がけにより逆境も順境とされる



島根と全国の掛け橋  
遣島使 ひんたうし  
SHIMANE

出雲大社(出雲市)

順天堂大学名誉教授  
新渡戸稲造記念センター長  
恵泉女学園理事長

E-mail: ohinc@juntendo.ac.jp

樋野興夫

2/2

／ 見せておトク！ 応募しておトク！ キャンペーン ／

詳しくはウラ面を▶